

長い間放置されてきた山林を引き継ぐ

森と木のクリエイター科 林業専攻 紀平 いずも

1. 研究の背景と目的

前職で全国各地に出張し、荒れた景色を目にすることがよくあった。道路や河川に覆いかぶさる竹藪や、山の中に不法投棄された乗用車や電気製品その他雑多なゴミなど、どうしてなのかと考えるうち、父が山を長年放置していることに思い至った。その山で自分のできることをやってみようと思い、2022年アカデミーに入学。父に山を引き継ぎ手入れすることを伝えると快諾してくれた。

さっそく父と県の担当課へ行き、森林簿、森林計画図を入手。両親、弟と山に行ってみたが、通る人のいない道は消えかかっていたり入っていけない。何から始めればいいのかと悩んでいた1年生の3月、「そういう時は現場へ」と先生の協力で山にたどり着き、何かできそうな気がしてきた。半年の休学を経て23年後期に改めて着手した。

研究の目的は2つ。

- ・次の世代・娘に手渡せる記録を残すこと
- ・自分の経験が同じような状況で困っている人の手がかりになること

2. 現場の把握

2-1 森林簿で所有山林の情報を得る

山は父の生家があった津市美里町船山にある。父が教員の仕事を得て町に出、祖父母も高齢になり家と田畑は手放し、山林は父が相続していた。子どもの頃、何度か連れて行ってもらったかすかな記憶がある。

所有する山林は山全体ではなく分割された中の3カ所で、集落の近くに点在している。森林簿の父の住所は旧住所のままで、「在村」と記録されていた。基本的情報は以下の通り(2020.9時点)。

- ①【オグラ9】0.29ha スギ・ヒノキ人工林 59年生 土砂防備保安林
- ②【ツジガオ507】0.6ha スギ・ヒノキ人工林 スギ55年生・ヒノキ76年生 土砂防備保安林
- ③【カイト159】0.2ha ヒノキ人工林 78年生 普通林

2-2 公図と登記事項証明書

森林簿の山の位置は森林計画図に示されていたが、森林計画図は山林を林班、小林班、枝番ごとに便宜的に直線で区切ったもので、見慣れていない私には位置をつかみにくかった。一般的な「地図」はないものかと法務局へ行ったが、地籍調査未実施のため住宅地図で該当ページを見ても空白があるだけだ。

地番がわかっているならばその周囲の公図を請求できる

と教えられ、3カ所の公図を入手した。しかし公図は出てくる場所によって縮尺がばらばらで不明なものもあり、全体のつながりが見えてこない。土地勘もなく、公図では実際の場所の見当がつかなかった。

3. 境界確定につながる幸運な出会い

3-1 区長さんと字絵図

船山で道に迷っていて知り合ったKさんの計らいで、区長さんと3人で会った。区長さんは、集落に受け継がれている手書きの字絵図の束をもって、森林計画図や公図と照らし合わせながら、実際に何度も一緒に歩いていただき、場所が特定できた。

この中で、3カ所のうち③カイト159の森林簿の小林班と森林計画図上の位置表示が間違っていることが判明、正しい位置は人工林でなく広葉樹天然林だった。

ちなみに、字絵図とは明治時代、地租改正の際に課税のために急いで作られたもので、公図のもとにもなっている。現状とは一致しないことが多いというが、区長さんが見せてくれたものには、山林ごとの面積と所有者が書き込まれており、貴重な資料だった。

3-2 境界確定

この先は区長さんに頼らず、自分で自由に山を歩けるようになろうと思い、時間を見つけては船山に通った。しかし、場所がわかっても自分の山の境界がわからないから、山を見る視点が定まらない。境界がわからないとどうしようもないと気付いた。船山に通い始めて6カ月が経過していた。

法務局で隣接する山の所有者を確認した。①のオグラ9の境界を接している所有者は3人で、2人は船山に、もう1人は近くの集落に引っ越したが畑仕事をしによく来ている人だとわかった。

まずこの境界を確認することにし、3人に手紙を出し立会を依頼した。日程を合わせ、3人の所有者さん、区長さんと現地を歩きながら境界を確認、合意した。

「谷や歩道、そして尾根沿いの広葉樹が境界」と言っていた父の記憶を頼りに、境界確認経験者の先生と現地を歩いて仮杭を打ち、公図にその位置を書き入れた資料を作成して臨んだのだが、これは立会をスムーズに進める力になった。

4. オグラ9の毎木調査と木の使いみち

森林簿ではスギ、ヒノキが半々の面積となっているが、どこに植えられ、今何がどうなっているのか、現

状を把握し記録に残すため毎木調査にとりくんだ。胸高（120 cm）以上の高さの木を対象に、樹種、胸高直径、GNSSにより位置の記録をとった。林内をくまなく歩いたことで山の様子も見えてきた。被圧され林冠まで到達できずに枯れて倒れた木がかなりある、風のある日はギギーと音をさせて細めの木が大きく揺れる、太いツルがあちこちで木に巻き付いている、下草はほとんど生えていないなど。

1本1本調査して山の様子がわかってくるのはおもしろかったが、手入れの目標は持てず、このまま放置していいのではという心持だった。そんな時、ある製材所の見学ツアーに母、娘と参加。スギ板の美しさに「母の住む実家の改修にオグラ9の丸太を使えないかな」と思いついた。使うためには伐採し搬出しなければ！目標が見えたうれしい瞬間だった。

5. オグラ9の現状と目標

5-1 現状

伐採方針を決めるためプロット調査を実施した。利用間伐の場所を道から近く搬出可能な斜面の下3分の1（0.1ha）とし、その中にプロットを2カ所設定し、樹高、枝下高、胸高直径を測定。平均値は以下の通り。

- ・スギ上層木樹高 22.7m
- ・密度 1200本/ha
- ・形状比91（樹高と直径のバランス、大きいほどヒョロヒョロ、80以上は風雪害に弱い）
- ・樹冠長率24%（30%以下は黄色信号）
- ・相対幹距比13%（樹木同士の距離・17~20%がちょうどよいとされ、これより下は近すぎ）
- ・収量比数 R_y は0.9で混み過ぎ

5-2 目標2024

現状から急激な伐採は避けるほうがよいが、混み過ぎはできるだけ解消していきたい。今後のことも考え、15%とすると、伐採した木で実家修繕の床材に使うのに必要な量（スギ3 m^3 ）は確保できる試算となった。材積で15%を目安にしようと思った。

5-3 20年後の到達目標

～人がしばらく手をかけなくてよい森林～

- ・私は60歳なので、20年先には次世代に引き継ぎたい。その時には、生物多様性が豊かで、人が歩いたりゆっくり過ごせる山で、引き継いだ人が当分手をかけなくても健全な状態が続く山にしたい
- ・樹高の成長は続くので、間伐で光が入るようになれば、木は葉を増やし幹を太らせる。下層植生も増え、健全な状態の森林にむかう
- ・20年後、収量比数 R_y 0.6、樹高26.5m、380本/ha
つまり、オグラ9は114本/0.3haになれば、その後32年間は間伐しなくても過密にならない。
- 5年ごとに1回、少しずつ間伐する計画を立てた。

今回 1200/ha 15%伐採 伐採本数54本

5年後 1020/ha 20%伐採 伐採本数62本
10年後 816/ha 20%伐採 伐採本数49本
15年後 653/ha 20%伐採 伐採本数40本
20年後 522/ha 27%伐採 伐採本数43本
伐採後は、381/ha こうして114本/0.3haの山にしていこう

6. 実践

- ・県へ保安林伐採届を提出
- ・林業専攻の同級生、先生たちの力で、林内作業車が通れる道づくり、橋の補強、伐採キックオフ
- ・「かわいい森づくり」（林業専攻の卒業生が今年度起業した事業体）に委託し、選木、伐採、搬出、自分も毎日一緒に作業
- ・地元の製材所を探し、製材、乾燥を相談、運搬

7. まとめ

7-1 実践から学んだこと

伐採して木を出したからこそ、人工林を放置してはいけなくて実感できた。必要な手入れをしてこなかったことが、選木、伐採、搬出、利用の難しさにつながっている。同時に、伐採した木の先端の方は新鮮な葉をつけていることがわかり、樹高が伸び続けていることにはっとし、山は変わっていきそうだ確信した。オグラ9だけでなく他の2カ所も自分で管理したい。

搬出に必要な道をつくったり橋を補強したりすることは必要不可欠だがひとりではできない、私がそのことを認識する前から力を貸してくれた先生や仲間から、協力することを学んだ。今後、自分のスキルアップとともに地域で新たな協力関係をつくっていきたい。

7-2 長い間放置されてきた山林を引き継ぐとき

- ・場所の把握・森林簿の取得（県、市町村、森林組合、法務局、地域の人）
- ・現況の把握 実際に行ってみる
- ・森林経営管理制度による管理手法の選択
- ・相続登記の申請（3年以内）
- ・市町村へ所有者届の提出（90日以内）

7-3 次世代に渡したい記録

- ・わかりやすい地図と行き方
- ・2024年毎木調査の結果をおとした林内地図
- ・この要旨（続いて以下も作る）
- ・樹木の成長と山林の手入れの方法（必要性）
- ・今後の計画、山林を持っているとできること
- ・手放したくなったら

8. 今後

ライフワークとして山の手入れを続ける。当面は森林簿・森林計画図の修正手続き、残っている危険木の伐採、製材所に置いてもらっている材の利用、note(Web上の配信サイト)にまとめること。